



平成28年12月16日

環境ものづくり国際インターンシッププログラムを開始 ～地域と協働した実践型グローバル教育の新たな取り組み～

岡山大学環境理工学部は、岡山市を生産拠点とするトナー製造のグローバル企業である株式会社アイメックス（神奈川県）と協働で、地域密着型の「環境ものづくり国際インターンシッププログラム」を開発し、今年度から運用を開始しました。

本プログラムは、“日本企業のグローバル戦略と環境ものづくりへの理解”をテーマとし、環境物質工学科の3年生8人が参加。7月から約2カ月間、大学での事前学習を経て、岡山市北区御津のアイメックス岡山工場と米国オレゴン州の IMEX America Corporation での研修を行いました。さらに、米国の YAMASA Corporation U. S. A と Epson Portland Inc. の見学も行い、日本企業の製品開発における技術戦略、製造企業ならではのグローバル戦略、ならびに環境課題への取り組みについて理解を深めました。

これは、地元企業と共に創り上げる新しい実践型人材育成プログラムであり、グローバルな視点を持った環境ものづくり人材を育成し、地域の活性化を目指します。

<事業背景>

本学環境理工学部は、実践知、グローバル化、そして異分野融合をキーワードとして環境に関する教育・研究活動を行ってきました。本学の教育改革“学びの強化”として2016年4月に始まった60分・4学期制によって、海外留学やインターンシップなどにより時間を充たしやすくなり、教育・研究領域が“フィールドワーク”には少し縁遠い「環境ものづくり分野」でも、実践型グローバル環境教育を行うことになりました。

そこで、地域活性化を視野に入れ、岡山と海外の両方にもものづくり拠点をもち、グローバルに活動を展開している企業と協働して、新しいタイプのグローバルインターンシッププログラムを創り、今年度から実施することになりました。

<実施内容>

本学環境理工学部は、トナーの製造販売でグローバルに活動している株式会社アイメックスと協働して、環境ものづくりに関するグローバルインターンシッププログラムを開発し、今年度から運用を始めました。

語学研修に重点を置かず、ものづくりにおけるグローバル化とは何かをしっかりと学ぶという観点から、“日本企業のグローバル戦略と環境ものづくりへの理解”をテーマに設定。アイメックスの主力拠点である岡山工場（岡山市北区御津）と海外の中心拠点である IMEX America Corporation（米国オレゴン州セーラム）での研修、ならびに日本企業の米国生産拠点の見学を組み合わせたプログラムとしました。

初回である今年度は、学部3年生8人が参加し、7～9月にかけて研修を実施しました。



PRESS RELEASE

“製品開発における技術戦略” “製造企業ならではのグローバル戦略” “環境課題への取り組み” の3つの課題に対し、ロールプレイ方式での疑似体験学習を実施。これにより、日本企業のグローバル戦略をより深く理解することができました。参加した学生全てが初めての海外体験であり、異文化に触れることで世界観が広がったようでした。

<成果と今後の展開>

これからのグローバル社会においては、語学能力はもとより、日本企業のグローバル戦略と環境配慮型ものづくり戦略を知ることは大変重要であり、それらを肌で感じることができる本プログラムは学生にとって非常に有意義です。また、企業にとっても大学と協同して人材教育を担っていくことは、企業の知名度を向上させるだけではなく、地域活性化につながる重要な社会貢献です。

今回は環境ものづくりに関連したプログラムでしたが、その他の分野においても、このような実践型教育が可能と考えています。地元企業と共に創り上げる新しい実践型人材育成プログラムを通して、グローバルな視点から物事を考えることができる環境人材を数多く育成し、地域の活性化を目指します。

<お問い合わせ>

岡山大学環境理工学部

学部長・教授 木村邦生

(電話番号) 086-251-8902

(FAX番号) 086-251-8902